Vol.2014-CH-102 No.2
2014/5/31

情報検索時代の事例研究 (その3)
ー 篆書体文書の検索と火事の特定の調査 ー

藤野 清次[1]　久野孝子[2]

概要：現代社会においてデジタル情報資源は日々増加の一途を辿っており，それに従って検索ツールも段々増えてきた．一方，昔からの古文書も多数現存し，それらが上記の検索ツールなどの活用により，判読できるようになればという期待も大きい．そこで，本発表では，試行錯誤ではあるが，その作業の一端を紹介することにする．

キーワード：情報検索，篆書，落款，古文書の判読

A case study of Information Retrieval (no.3)

Abstract: In the present time, number of tool of information retrieval increases, as digital sources of information increase greatly day by day. On the contrary, many old documents written in the traditional fashion exit nowadays. In my article, we would like to report how to investigate and know interesting results through information retrieval.

Keywords: Information Retrieval, “Tensho”, “Rakkan”, To decipher old documents

1. はじめに

古い文献や資料などを，現代の情報化社会の中で，コンピュータのアプリケーションの一つである情報検索機能を使って発掘，調査することについて考える．ただ，あくまで初等的事例研究のレベルで，学問的な普遍性などは少ないと思われる．

さて，次のような素朴な疑問，すなわち，「古い色紙，サイン帳，扁額，日本画などを見たとき，これは誰が書いた（描いた）のだろう？　誰の作品だろう？」という疑問を持つことがある．このような場面に私たちはたまに遭遇します．このとき，「目利きの人」，「専門の研究家」，「長年の経験者」などであれば，即座に「これは誰のいつ頃の作品だ」と言い当てるでしょう．でも，私達初心者はそれらの疑問に十分答えることができません．そこで，図書館などでこの関係の著作物や文献を調べる，または一念発起して，漢字の「くずし字」の講座に一定期間通って勉強するなどしてその力を養うことが必要です．しかし，現代人は忙しくてその時間がなかなか取れません．

そこで，古文書や書の書き方の簡単な規則（常識）だけご紹介します．まず，印の種類についての基本事項です．

- **引首印**：書幅の頭初（書の右端上方）に押す印のことです．作品の書き出しに押される印です．
- **姓名印**：姓名が 2 文字なら，縦に 2 行が一般的．右から左へ回して彫る「**回印**」のときも多い．姓名が奇数文字のときは「印」や「章」という字を補足する．
- **雅号印**：雅号とは，自分の世俗的な名前や身分を離れて，風雅を楽しむためにつけた名前を指す．たくさんの雅号を持つ人も多い．　（伊藤博文翁がそのよい例）ただし，姓名印と雅号印は，書の左端に上から姓名印そして雅号印の順番で押すことが多い．
- **押脚印**：　書画幅の右下に押す印．**遊印**（自由な語句や形状をした印）が多く用いられる．また，書画作品を制作し，姓名や雅号を署名し，押印する行為を**落款** (**らっかん**) と言う．

以上の知識で，書の中のどこの場所に何があるかはわかりました．しかし，まだ検索はできません．**篆書体** (**てんしょたい**) で書かれた文字を判読するのが大変な作業です．

1　九州大学情報基盤研究開発センター
Research Institute for Information Technology, Kyushu University
2　栄屋プロジェクト
Sakayeya Project

ⓒ 2014 Information Processing Society of Japan

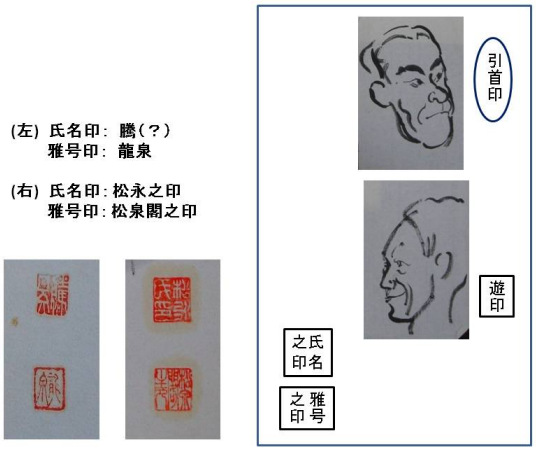


図 1　落款印の例とその配置

また，文字の音読ができないと検索の入力さえもできません．篆書体は 2200 年ほど前，中国の始皇帝が天下を統一し，李斯（りし）に命じて，それまでバラバラだった複雑な文字（大篆）を省略して作らせた字体で**小篆**と言われています．それらの総称名が前述の篆書です．篆書体で書かれた姓名や雅号を判読するには，知識，経験などが大いに必要です．比較的（著名人だからこそ）わかり易い事例から順に紹介していくことにします．

図 1 に落款印の例とその配置を示す．図中の人物は，栄屋旅館に残っている作家丹羽文雄の似顔絵です．引首印，氏名印，雅号印そして遊印の典型的な配置位置を表しています．しかし，これはあくまで原則論で，これに従わない事例の方がむしろ多いかもしれません．本報告で，特に断らない限り文化財はすべて栄屋プロジェクト所有である．

1.1　古文書判読プロセスの紹介

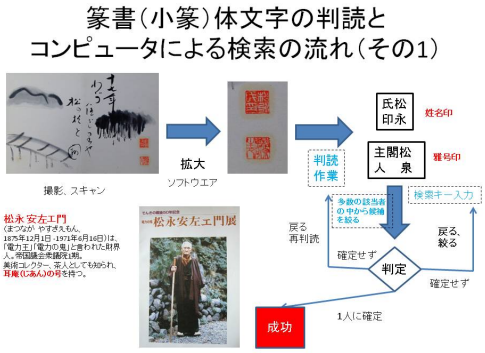


図 2　松永安左ヱ門 (雅号：松泉閣) の場合

図 2 に，財界人 松永安左ヱ門 (雅号：松泉閣) の場合の判読プロセスを示します．「松泉閣」は，松永候を慕う人々の集まり（団体）のようなものです．同様に，図 3 に，歌舞伎役者五代目の助高屋高助（すけたかや たかすけ）の場合の判読プロセスを，図 4 に，松永安左ヱ門 (雅号：一洲) の場合の判読プロセスを示します．このように，雅号を複数持つ人も多いです．

図 3 の「高助」の「**助**」がどうしても違う漢字だと思っていました．そのため，検索は全然ヒットしませんでした．次に，検索で「助」の入力はあきらめて，検索キーを「五代」と「亀音」だけにして行い，個人を特定できました．

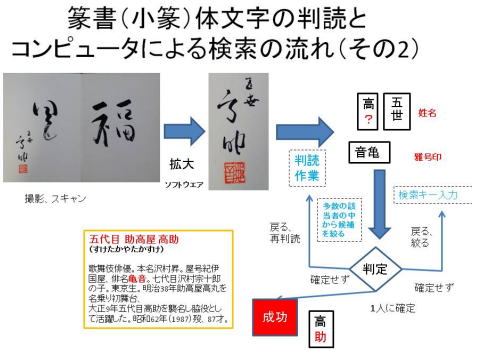


図 3　五代 助高屋高助の場合

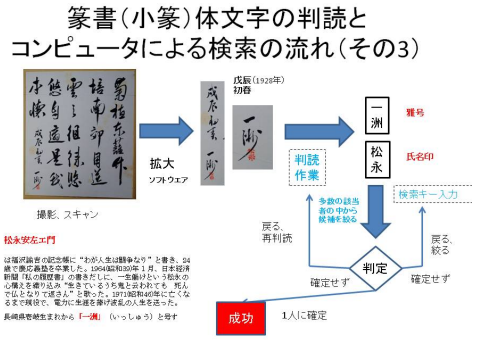


図 4　松永安左ヱ門 (雅号：一洲) の場合

1.2　事例紹介

図 5(左) は，戊辰（つちのえたつ），即ち 1928（昭和 3）年，雅号は「一洲」，姓名印は「松永」とあります．「一洲」と「松永」の二つを検索キーで検索に入力すると Wikipedia の次の記述が得られます．

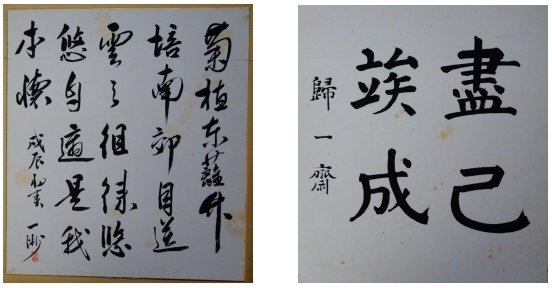


図 5　松永安左ヱ門 (左) と嘉納治五郎 (右) の書

松永安左ヱ門

松永安左ヱ門（まつなが やすざえもん 1875 年（明治 8 年）12 月 1 日 - 1971 年（昭和 46 年）6 月 16 日）は，「電力王」「電力の鬼」と言われた日本の財界人．政治家（帝国議会衆議院議員 1 期）．美術コレクター，茶人としても知られる．

図 5(右) は，「帰一斎」と検索キーを入力すると，「嘉納治五郎先生は，60 才までは「甲南」，60 代は「進乎斎」，70 代では「帰一斎」を号とした．」の記述が見つかりました．あらためて，「嘉納治五郎」と入力すると，次の Wikipedia の記述が得られる．

嘉納 治五郎

嘉納 治五郎（かのう じごろう，1860 年 12 月 9 日（万延元年 10 月 28 日） - 1938 年（昭和 13 年）5 月 4 日）は日本の柔道家，教育者．講道館柔道の創始者，柔道・スポーツ・教育分野の発展や日本のオリンピック初参加に尽力．「柔道の父」，「日本の体育の父」とも呼ばれた．

次の事例を紹介します．図 6(a) に河野斗南の画と印を，図 6(b) に松永冠山の画と書を各々示す．河野斗南の手がかりは「雅号印」だけでしたが，比較的判読し易い書体でした．検索の結果，河野斗南は書や篆刻の分野では著名な人であることがわかりました．一方，松永冠山の画と書は手がかりは多いですが，判読できるかどうかポイントでした．

(a) 河野斗南　(b) 松永冠山

図 6　河野斗南と松永冠山の書

松永冠山

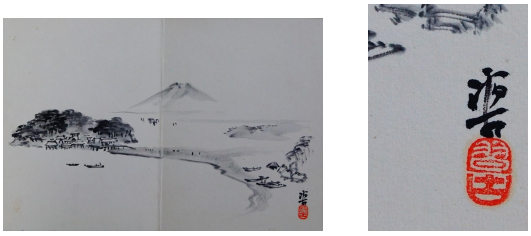
松永冠山 (1894 - 1965) 日本画家．福岡県生れ．本名関蔵，別号蒼明，のち冠山．京都絵専卒．菊池契月に師事．文展・帝展で活躍した．

河野斗南

河野斗南（こうの・となん）1914 年生まれ．本名・河野仁寿．早稲田大学卒業．**斗南**，又は宗伯と号し，別号を**杜南**，扣月山房，一斎（篆刻）とも云う．中国書の正統派として著名で，特に隷書，篆書，古篆書では当代随一．朝日新聞社の社印を始め，近衛文麿旧公爵，吉田茂元首相，徳川旧公爵，松平旧子爵，三井家等，政財界人著名人の印刻に数多くの絶品を残す．

1.3　判読が難しかった事例

次に，2014 年 4 月 23 日時点で，特定に自信があまりない事例もご紹介します．図 7(左) は，同右図は下方の印の周辺の拡大図です．字は読みやすいのですが，該当者が検索ではわかりません．雅号印は「習古」と読めますが．日本最初のビヤホール「恵比寿ビヤホール」の壁画を描いた（明治 32 年 8 月）小林習古という画伯がいましたが，それ以上の情報がなく，まだ断定できていません．



(a) 雅号「習古」　(b) 拡大図

図 7　雅号「習古」の画とその拡大図

次に，非常に調査が難航した事例をご紹介します．図 8 に，重光葵と清水薫三の書と画を示す．雅号は「向陽」で分かり易いのですが，逆に平凡すぎて，検索では多数のものがヒットしました．検索キーが単純しかも現代語で，有力情報になかなか辿り着けない事例です．後でわかったことですが，書を書いた人と絵を描いた人が異なる二人の合作で，これも苦戦の一因でした．しかし，検索による調査（検索でヒットした項目を丹念に見ること）で判明しました．図 8(右) は重光葵記念館所蔵の掛け軸です．

図 8　重光葵と清水薫三の書と画

重光葵と清水薫三

重光葵（しげみつまもる）1887（明治 20）年 7 月 29 日 - 1957（昭和 32）年 1 月 26 日）外交官，外務大臣でした．終戦のとき，戦艦ミズリー号で日本国を代表して署名した人．葵 (あおい) は中国では向日葵（ひまわり）を意味するので，雅号を向陽とした．親交のあった外交官，清水薫三 (東翠) の画に，重光葵 (向陽) が句を寄せた．

清水薫三：中華民国（台湾）で書記官・公使などを務めた．晩年の重光と親交があり，清水薫三（東翠）の水墨画に重光が賛を書いた．

図 9　鍋島 直映の画

最後に紹介する事例は，どうしても検索ではわからず，専門家に教えてもらった事例です．図 9 に，鍋島 直映の画を示す．「潮江」だけがヒント，しかも現代語でまったくお手上げでした．すると，何と佐賀のお殿様の作品でした．

鍋島 直映

鍋島 直映（なべしま なおみつ，1872 年（明治 5 年） - 1943 年（昭和 18 年））は旧佐賀藩主・鍋島家の 12 代当主．11 代直大の嫡男．明治 24 年 (1891)3 月英国へ留学し，31 年 12 月ケンブリッジ大を卒業，32 年 8 月に帰国．能楽・絵画・揮毫・漢詩・ゴルフ・写真・狩猟・自動車など，多種多芸であった．

1.4　松方 正義候の事例

松方正義候の雅号は「海東」であるが，図 10 と図 11 では署名の「海」が雅号の「海」と一致しない事例である．

松方 正義候

松方 正義（まつかた まさよし，天保 6 年 2 月 25 日（1835 年 3 月 23 日） - 1924 年（大正 13 年）7 月 2 日）は，薩摩藩士，政治家，財政指導者．位階は従一位．勲等は大勲位．爵位は公爵．号は**海東**．明治期の日本において内閣総理大臣を 2 度（第 4・6 代）務めるとともに大蔵卿，大蔵大臣（初・第 2・3・4・6・8・11 代）を務め日本銀行を設立，金本位制を確立など，財政通として業績を残した．

図 10 に，明治期の内閣総理大臣 松方正義候の書 1 とその拡大図を示す．九大名誉教授 秀村選三氏所蔵の逸品である．同様に，図 11 松方正義候の書 2 とその拡大図を示す．これは栄屋プロジェクト所有の掛け軸である．

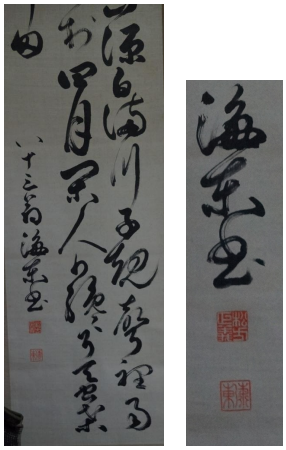


図 10　松方 正義候の書 1 とその拡大図

南宋の翁巻の「郷村四月」

緑遍山原白滿川 子規聲裏雨如煙
郷村四月閑人少 繰了蚕桑又挿田

［**口語訳**］山や野原には緑の新緑が一面，川は白く輝き，ほととぎすの鳴き声が響く中，辺りは雨に煙る．初夏四月の農村には，閑な人は居ないものだ．蚕が終ったばかりだが，もう田植えが始まる．

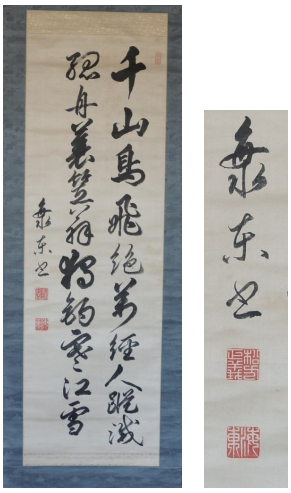


図 11　松方 正義候の書 2 とその拡大図

江雪

「千山鳥飛絶　萬徑人蹤滅　孤舟簑笠翁　獨釣寒江雪」

意味：千山　鳥　飛ぶこと絶え，萬徑　人蹤（じんしょう）滅（き）ゆ孤舟簑笠（さりふ）の翁，獨り釣る　寒江の雪

1.5 三木露風の自画像の場合

図 12 に，三木 露風の自画像と書「大聲入俚 (?) 耳」の書を示す．書の意味は，「周囲の雑音が大きすぎて，物事に集中できない」である． 手がかりは自画像だけだったが，それは顔や名前が当時よく知られていた証でもある．

三木露風

三木 露風（みき ろふう，1889 年（明治 22 年）6 月 23 日 - 1964 年（昭和 39 年）12 月 29 日）は，日本の詩人，童謡作家，歌人，随筆家．近代日本を代表する詩人・作詞家として，北原白秋と並び「白露時代」と称された．若き日は日本における象徴派詩人．

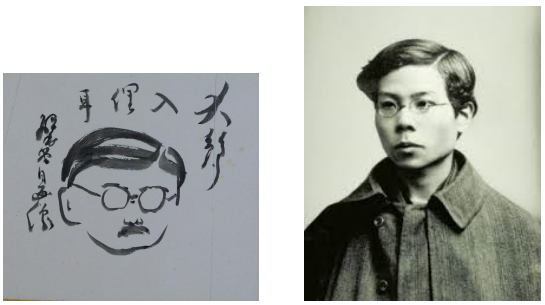


図 12 三木 露風の自画像と書「大聲入俚 (?) 耳」

2. 火事と検索

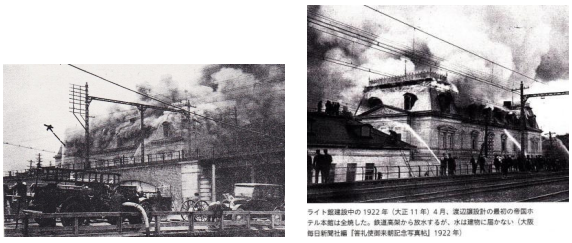
ここでは，「火事」をキーワードとして話を進める．いつの世でも，火事は人命や財産を一瞬のうちに灰にする恐ろしいものである．そこで，「火事」と検索についての事例を紹介する．帝国ホテルのような超一流のホテルで起こった火事についてアインシュタイン博士宿泊という視点で眺めてみよう．

2.1 火事と帝国ホテル

帝国ホテルでのアインシュタイン夫妻

アインシュタイン夫妻は，ステーション・ホテルで小憩ののち，東京駅から帝国ホテルに向かわれました．帝国ホテルには，歓迎の花束で飾られた部屋が夫妻のために用意されていました．アインシュタインは，「この部屋はあまりに贅沢過ぎます．このホテルは大層私は気に入りましたが，もっと質素な部屋と取り換えるように，山本氏に伝えてください」と言いました．しかし，改造社の山本実彦社長の，「私は礼を尽くして，出来る限りのことをあなた方に捧げたい希望を持っています．私の誠意だけは是非受け入れて頂きたいと思います」という主張に押し返されてしまった．

さて，門司の三井倶楽部の 2 階展示室に展示されているアインシュタイン関係資料には，上記のような記述がある．この記述をそのまま読むと，博士夫妻は「歓迎の花束で飾られた部屋」に結局泊まることになった，と推測できますが，はっきりわかりません．理由を調べてみました．



ライト設建設中の 1922 年（大正 11 年）4 月，渡辺譲設計の最初の帝国ホテル本館は全焼した。鉄道高架から放水するが，水は建物に届かない（大阪毎日新聞社編『昭和史探訪写真帖』1922 年）

図 13 帝国ホテルの火事 (1922 年 4 月)

ホテルによっては，その部屋はアインシュタイン夫妻が泊まられたということで，記念すべき部屋として永遠に名前を残しているところもある．たとえば，日光の金谷ホテルでは 1922 年 12 月 4 日から 6 日まで宿泊された 15 号室がその栄誉に浴した．その当時のスチーム暖房も復元された．しかし，帝国ホテルではアインシュタイン夫妻がどの部屋に泊まられたのかについて，「帝国ホテル百年史」[3] には何の記述もない．ただ，アインシュタイン夫妻が宿泊された事実だけが 1 行記されている．図 14 に帝国ホテルの輝かしい歴史の一端を示す．

1922 大正 11 年

1	—	増資（新資本金 600 万円）
4	16	本館地下室から出火、本館全焼
4	20	大倉喜八郎取締役会長以下取締役全員、辞表提出
5	9	大倉喜七郎、取締役会長に就任
6	28	米国から帰国した俳優早川雪洲来泊
6	—	新ホテル中央食堂および北翼部客室完成
7	1	新ホテル（ライト館）一部開業
7	2	米国海軍提督デンビー卿一行来泊
7	—	フランク・ロイド・ライト帰国
10	7	新ホテル中央部の宴会場・演芸場完成
11	1	東京會舘開館
11	18	物理学者アルバート・アインシュタイン来泊
11	—	新館グリル食堂および館内売店（アーケード）営業開始

1923 大正 12 年

1	30	社長制を採用（初代取締役社長に大倉喜七郎）
3	23	帝国ホテル事務章程制定
4	19	副支配人犬丸徹三、支配人に就任
8	—	8 月末、新館（ライト館）全館落成（鉄筋コンクリートおよび煉瓦コンクリート構造，地上 5 階・地下 1 階，延床面積 1 万 535 坪，客室数 270 室）
9	1	新館落成披露準備中に関東大震災発生（別館は復旧困難となり取り壊し）
9	2	企業や新聞通信社、各国大公使館事務所として客室を提供

図 14 帝国ホテルの歴史

一方，火事で被災した帝国ホテルの歴史を列記した．

帝国ホテルの歴史 (その 1)

- 1890 （明治 23 ）年帝国ホテル本館竣工
- 1906 （明治 39 ）年別館竣工
- 1919 （大正 8 ）年 12 月 27 二日別館火災（電線から出火）
- 1920 （大正 9）年新別館竣工（ライトによる設計 2 階建て）
- 1922（大正 11）年 4 月 16 日、本館全焼（地下室より出火）

帝国ホテルの歴史 (その 2)

- 1922（大正 11）年 7 月本館北翼客室のみ営業開始
- 1922（大正 11）年 11 月 18 日アインシュタイン夫妻宿泊
- 1923（大正 12）年 8 月末、新館（ライト館）全館落成
- 1923（大正 12）年 9 月 1 日、新館落成披露準備中関東大震災
- 1923（大正 12）年新別館取り壊し

アインシュタインの来日時，宿泊可能な建物を太字で記す．年表から，新別館または本館北翼客室のどちらかのお部屋に博士夫妻は宿泊されたことがわかる．一方，別の文献 [2] には次のような記述がある．

金子務著「アインシュタイン・ショック」より

「帝国ホテルは，（中略）11 年 6 月末には，中央部食堂と北翼客室が完成，新館での営業が始まっていた．（中略）2 階左の 3 部屋が博士夫妻のために用意されていた．228 号がア博士，232 号が夫人用，236 号が応接用で,」（その後，3 室を 2 室に減らす処置を山本社長がとった）

結局，夫妻が泊られた部屋がどの館にあったのかは不明のようである．火事で宿泊記録などが消失したり，前の大戦の戦後の混乱の中などで貴重な資料が紛失したのかもしれません．やはり，ホテルや旅館にとって火事は大敵です．

2.2 火事と栄屋旅館

一方，小さな個人経営の和風旅館の火事の場合は検索でどの程度のことがわかるのでしょうか?結論を先に述べると，まったく情報入手不可でした．現在と関係が薄いので，検索で元々何もヒットするはずがありません．そこで，しらみつぶしに調査をしました．そして，文献 [1] を見つけ，それを手掛かりに，福岡日日新聞の記事を調べ，栄屋の火事の全貌が初めてわかりました．文献の左から 2 行目です．「同 (三) 月 橋口町栄屋旅館全焼する」とあります．

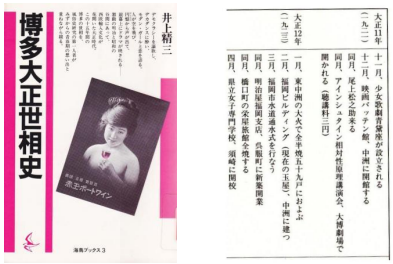


図 15 栄屋旅館の火事の記述（1923（大正 12）年 3 月 22 日）[1]

1923（大正 12）年 3 月 22 日，この日は栄屋にとっては大変悲しく辛い日になりました．お客様を送り出した後，部屋の掃除に入った従業員のタバコの火の不始末から，母屋の 3 階建てと 2 階建ての建物がほぼ全焼しました．橋口町の表通りに面した 4 階建ての建物だけは無傷で残りました．昼間の火事で近隣の家屋への延焼被害が少なかったことや迅速な消火活動などの御蔭で，社会的影響も少なくて最少限の被害で済みました．栄屋のこの火事のことは長い間歴史の中に埋もれていて誰も知りませんでした．

図 16 栄屋旅館の火事（1923（大正 12）年 3 月 22 日，福岡日日新聞）

しかし，栄屋旅館にとって経済的損失は莫大でした．アインシュタイン博士が栄屋に泊られたときの出費で，栄屋の台所は火の車でした．現代では水洗トイレはどの家にもありますが，当時は福岡では水洗トイレはほとんど皆無でした．それもそのはず，福岡市には水道施設もまだありませんでした．さらに，1 階の部屋ではなく，博士が泊られた 3 階の部屋に水洗トイレの設置費用は栄屋にとっては大きな額でした．その工事の僅か 3 ヶ月後の災難でした．

3. おわりに

篆書体の古文書の判読に情報検索はかなり有効であったが，火事などの日常の出来事の特定には力不足であった．

参考文献

[1] 井上精三，「博多大正世相史」，海鳥社，1987.
[2] 金子務，「アインシュタイン・ショック」，河出書房新報，1981 年.
[3] 帝国ホテル，「帝国ホテルの 120 年」，2010.